

**第1回 北陸圏広域地方計画協議会 議事概要****1. 日時**

平成20年10月2日(木) 13:30～15:30

**2. 場所**

金沢市文化ホール

**3. 出席者**

別添の協議会配布資料を参照

**4. 議事(概要)****(1)開会****(2)挨拶**

- ・国土交通大臣(国土交通審議官代読)
- ・北陸圏広域地方計画協議会長

**(3)【議題①】 北陸圏広域地方計画協議会について**

- ・事務局から資料1-1、1-2について説明

**(4)【議題②】 北陸圏広域地方計画中間整理、プロジェクト(案)について**

- ・事務局から、資料2-1、2-2、2-3について説明

**(5)【議題③】 意見交換**

- ・人口減少、少子高齢化が進んでいく中で、地域の活力を維持・向上させていくには、地域の有する潜在的な資源を掘り起こし、地域の魅力を高めていくと同時に、人やモノの往来をこれまで以上に盛んにすることが重要。そのためには、三大都市圏との時間距離短縮といった視点から、北陸新幹線や高規格幹線道路網などの広域交流基盤の整備が不可欠。
- ・北陸新幹線の金沢までの早期開業とともに、白山総合車両基地以西の全線整備が不可欠であり、北陸圏の最重要課題として取り組んでいくべき。
- ・広域交流を支える道路網の整備は、観光、物流など多方面大きな波及効果が期待されるため、今後とも能越自動車道をはじめとする幹線道路の整備が必要。
- ・小松空港では、上海便、ソウル便に加え、本年6月から台北便が新たに就航しており、北陸3県で連携しながら双方向の利用促進を進めている。また、能登空港では、国際チャーター便が引き続き好調に推移している。
- ・金沢港では、世界的な建設機械メーカーの工場が相次いで整備、釜山との間の国際フェリー便が6月に就航、大型貨物船の受け入れ可能な大深度岸壁が来月に供用開始される予定など、国際物流拠点化に向けた基盤の整備が進み、東アジア地域をはじめとした海外との物流拡大が期待される。
- ・北陸圏の発展には、東アジア地域をはじめとした海外との交流を盛んにしていくことが重要であり、そのためには空や海の交流基盤を最大限活用した国際観光、国際物流の拡大、充実が必要。

- ・ほくりく健康創造クラスター構想第Ⅱ期が採択され、関連産業の集積、新たな産業の創出が期待されているように、国際競争や地域間競争が激化する中、地域の産業の強みを活かしながら、産学官の連携、産業間の連携を進め、新しい産業の創出、競争力のある産業の育成が重要。
- ・地球規模の環境問題の対応として、地球温暖化対策に加え、生物多様性の維持も重要であり、国連大学のオペレーティングユニットや高等教育機関等と連携して進めている里山の利用・保全に関する取組に見られるように北陸の里山を次の世代に継承していくことも大事なテーマである。
- ・昨年3月の能登半島地震や、本年7月末の集中豪雨による浅野川の氾濫など甚大な被害を受ける中で、災害に強い圏域づくりのため、広域的で大規模な自然災害はもとより、局地的な災害についても防災・減災対策の充実が必要であり、こうした点も検討願いたい。
- ・能登空港が能登半島の総体的な活性化につながっていることを考えると、離発着の回数や利用者数といった狭い意味でなく、少し広い視野で費用対効果を考える必要がある。
- ・関西～北陸～新潟は降雪や天候の急変で高速道路が遮断することがある。この対応としてソフト・ハード対策などを総合的に実施することは、日本の高速道路ネットワークの確保や、時間を争う物流にとって重要。
- ・雪は、北陸にとってのハンディキャップである反面、環境面など良い意味もある。マイナス的な言い方だけではなく、もう少し多様な良い表現をすべき。
- ・北陸圏は学力の高い地域であり、人材も地域資源。子育てなどの箇所而言及すれば、モデルとして日本全体の学力向上によい影響が与えられると考える。
- ・北陸は電力供給についても、周辺地域、大都市への貢献があり、CO<sub>2</sub>対策などの役割を果たしているため、計画の中で協調願いたい。
- ・ロシアや中国との交流に関連しては、シベリア鉄道やその周辺の開発において民間の活動が始まっており、これらに関しての具体性をもった対策が必要。
- ・この計画は今後10年の計画であるから、北陸新幹線の敦賀までの整備が、10年間の中で完成しているように表現すべき。
- ・北陸圏は米の単作地帯で、日本一兼業農家率の高い地域。これらの課題を、国の農業投資の観点も含めて解決することが重要。そうすることで、食料供給基地あるいは、地域のさまざまな農産物の文化を生かすことができる。
- ・国土計画の中に国土政策が感じられる内容とすべき。今回の計画では、できる限り優劣や国の責任を明瞭に表現すべき。
- ・全国規模のネットワークである、新幹線や中部縦貫道など、国が重要と位置づけたものは実施してほしい。
- ・北陸新幹線については、「東海道新幹線の代替補完機能を有していること」、「未着工区間の早期整備に向けた取り組みの実施」の表現が必要。
- ・北陸圏は環日本海沿岸地域の中心的地域であり、日本海沿岸地域を縦断する日本海国土軸の形成が北陸の発展につながると考えており、「北陸圏を『日本海国土軸の中核圏域』と位置づける」という現在の表現を尊重すべき。

- ・北陸圏と新潟県は非常に密接なつながりがあり、今後さらに密接に連携していく必要があると認識している。
- ・ブロック単位を越えた連携が重要であり、日本海国土軸の形成を着実に進めるべきと考える。
- ・中山間地において、人口減少や高齢化の進展が顕著となる中で、定住人口の増加や交流人口の増加が喫緊の課題であり、北陸新幹線の開業により広域的な観光など新たな交流への取り組みを、隣接県として北陸圏と連携して取り組みたい。
- ・いきいきふるさと農山漁村活性化プロジェクトなどは、事務レベルで積極的に検討していきたい。
- ・大規模な災害では、都道府県の区域を越えた協力体制が不可欠であり、防災技術、地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト等の検討を進めていただきたい。
- ・隣の域ではあるものの、山岳を経て接しているため直接の往来が難しく、これまで長野～金沢間の移動に3時間を要していた。それが、新幹線の開通により1時間で交流できるようになるので、今後の展開に大きく期待している。今後は、長野県が北陸～東京間の単なる通過点とならないような魅力をつくっていきたい。
- ・観光庁が設置された。日本は非常に有利な観光地の一つだと思うので、北陸、長野、岐阜を含むスケールの大きな観光ルートを確立していくことが必要。それがインバウンドを呼び込む道になるのではないか。
- ・最近では、野球のBCリーグにも見られるように、文化・スポーツ面など新たな交流が始まっており、期待している。
- ・敦賀港と「滋賀統合物流センター(SILC: Shiga Integrated Logistics Center)」との連携も視野に入れ、日本海と近畿、あるいは太平洋を結ぶ拠点として北陸圏との連携、発展の一翼を担っていきたい。
- ・滋賀県は、北国街道や鯖街道に見られるように、北陸と近畿、中部との交通の結節点、要衝として北陸圏とも強いつながりを有し、福井、岐阜、三重といった地域との連携を重視しており、日本海側の交流拠点である北陸圏と、内陸県が連携を深めていきたい。
- ・自治体等で実施するソフト及びハードの事業が個々の計画に盛り込まれることによって、自治体における財源確保との関係について、市町村への説明の際、説明をお願いしたい。
- ・能登半島地震のような大規模災害時の連絡手段の確保について今後検討していく必要がある。
- ・第一次産業が崩壊の危機にある中で、境界確定を行う際の不在村地主対策やCO<sub>2</sub>吸収源ともなる地方の山林管理について国を挙げた取り組みが必要である。
- ・北陸自動車道や東海北陸自動車道の開通が沿線地域の交流を増加させる中、富山県と長野県を直接結ぶ高規格幹線道路がない。大きな夢として是非、富山県と長野県を結ぶ高規格幹線道路の整備をお願いしたい。
- ・広域連携プロジェクトの今後の進め方としては、県、市町村が計画策定にどの程度関わることができるのか、国の支援の程度も含めて指針などを明らかにして欲しい。
- ・ここ数年の最大のトピックである北陸新幹線開通に向けて、都市の魅力づくりや基盤整備、観光客の誘致促進、観光圏の形成、さらには沿線自治体との連携といった各種事業に取り組んでいく予定であるため、北陸新幹線計画の着実な推進をお願いしたい。

- ・新幹線開通に伴う二次交通対策、高齢化の進展に対応した公共交通優先のまちづくりに資するバスやLRTなどの助成制度の充実もお願いしたい。
- ・多大な被害をもたらした7月28日の浅野川流域での大規模な大雨災害の発生などに対して、新しい治水に対する基準の検討とともに、治水対策が総合的に進むよう十分な財源確保をお願いしたい。
- ・老朽化した社会資本の更新は、制度的な対応とともに民間も含めた人材の育成も重要である。
- ・伝統産業のみならず、製造業や林業、農業などについても少子化の状況や産業構造の変化を踏まえた、ものづくりを担う人材育成が重要である。
- ・2014年の新幹線開通や、東海北陸自動車道開通に加えて、石川県、富山県、福井県を結ぶ能登地区に入る能越自動車道の整備を是非とも進めていただきたい。それら北陸新幹線や能越自動車道の開通を見据えて能登地区のまちづくりを進めていきたいと考えている。
- ・昨日開催した町長会の会合における県要望の第1番目は道路整備、その次が港湾・河川関係整備であり、そういった意味では無駄な道路は一本もないと考えており、道路特定財源の一般財源化の中で、道路整備の財源確保をお願いしたい。
- ・各市町が大変苦勞している少子・高齢化の中で、農業や企業誘致、災害の問題への対策など、北陸3県が東アジアで大きく伸びていくような政策を実行してほしい。
- ・広域連携プロジェクトとしては、個別事業名が記載されないと将来像がはっきり見えず、市町村の役割も明確にならず、市町村が意見を言えない。
- ・北陸新幹線の整備、高規格幹線道路である舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道の整備、足羽川ダムの建設、こういった重要な事業は当然記載されてしかるべきである。
- ・広域地方計画の策定に際しては、各自治体の意見を取り込み、北陸圏の独自色が出た計画になるように期待している。
- ・広域地方計画では、次のステップに向けた夢みたいなものを何か一つ考えて欲しい。
- ・広域地方計画に記載されていることを、だれが、いつまでに、どういう責任でということを、第6章の「計画の実現に向けて」の中で具体的に書き込んで欲しい。
- ・その際、各県は総合計画等で対応していくと思うが、それらがバラバラになっては横串が通らないことにもなるため、そういった問題も意識して考えてほしい。

#### (6) 今後のスケジュールについて

- ・事務局より資料3について説明

#### 5. 閉会

- ・北陸地方整備局長

(速報のため、事後修正の可能性があります。)